

憲法九条の会・岩岡 ニュース 第79号

2014・4・24発行

発行人 堀口照美／編集人 白井篤子

「憲法九条の会・岩岡」7周年記念行事行われる 103人参加

4月13日（日）午後、「憲法九条の会・岩岡」7周年記念行事と第8回総会が、ペレーネホールで行われました。103人の参加で、立ち見も出る盛況でした。参加して下さいました。ご

安倍政権は、「特定秘密保護法」の制定に続き、これまでの政府の方針を180度転換して「集団的自衛権」が行使できるようにしようとしています。日本を「戦争ができる国」に変えようとしています。主要メディアは世論調査を行っていますが、「集団的自衛権63%否定的、昨年比7ポイント増、行使容認は29%」（4月7日付け朝日新聞）と国民の多数は政府の姿勢を容認していません。

しかし、領土をめぐる近隣諸国との軍事衝突を懸念する声もあり、日本の平和主義は今崖っぷちに立たされていると感じます。今回は今最も国民の関心が高い問題について、松竹伸幸さん（ジャーナリスト）にお話しいただくことにしました。要旨を紹介します。

憲法九条と軍事戦略は両立するか

—国民が望む、9条をもつ日本のとるべき道を考える—

難しくても考えよう 集団的自衛権は6文字。私も昔ならこういう見出しの記事を中味まで読むような意欲はなかったと思いますが、しかしそうも言っていられないような事態がどんどん進んでいて、実際、集団的自衛権を行使する国になるような状況になっています。難しいことでも向かっていって、自分のものにしていかなければならないそんな時代になっていると思うんです。

ただ同時に、安倍さんが進んでいこうとしている路線は、いろんなところで矛盾、軋轢を生んでいるということをお話しておかなければならないと思うんですね。

アメリカに向かうミサイルを撃ち落とさなければ日米同盟はもたなくなる？

安倍さんが6年前に打ち出した安保法制懇（安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会）が、この連休明けに解釈改憲の報告を出そうとしているわけですが、安倍さんや石破さんが言ってきたことの一つに、アメリカに向かうミサイルを撃ち落とさなくていいのか、という問題があります。「日本はその技術があるのに、アメリカに向かうミサイルを撃ち落とさなければアメリカ国民の命が失われてしまう、そんなことでは日米同盟はもたなくなる」ということをずっとおっしゃってきました。北朝鮮のミサイルは射程距離としては日本にまで届く能力はあるわけで、落ちてきたときのために必要というのでパック3を配備した。それがアメリカに向かうミサイルを撃ち落とせるかということ非常に難しいんですね。アメリカに飛んでいくミサイルは北極を飛んでアメリカに行く。日本から離れていくミサイルを、日本から迎撃ミサイルを打ち上げて、追いついてぶつけるという技術はどの国も持っていない。日本もできないけれどアメリカもできない。

2か月ほど前、石破さんが『日本人のための集団的自衛権入門』という本を書きましたが、そこで防衛専門家からそういう批判が出ているということを知った上で、実際に技術的にできないんです、ということを知っています。6年前に報告書を出して、それができののにできなかったら日米同盟はもたないと言ってこの5、6年ずっとやってきた人が、実はできないんだ、ということを知るといって状況なんですよ。安倍さんや石破さんが集団的自衛権行使を言っているのは、ほんとに日本やアメリカにミサイルが落ちてくるかもしれないと真面目に考えてやっているんじゃないんで

す。要するに集団的自衛権を国民に認めさせたいがために、実際にはありえないことを、防衛上非常識なことを言って強行しようとしているということですね。日本の防衛を担ってきた人たちも批判の声を上げるようになってきた、そういう安倍さんのやり方をアメリカのオバマ政権が非常に困った目で見つめています。

米中関係と安倍政権

アメリカにとって、今、米中関係をどうするのかというのは非常に複雑で難しい問題なんです。日本では安倍さんも石破さんも抑止だ抑止だとよく言いますよね。中国を抑止の対象にするというのが自民党の考え方です。でも抑止ってアメリカは実際の戦略としては使わないんです。なぜかという、アメリカの戦略という抑止というのは、もし相手国がアメリカに攻めて来たら、その時はただ反撃するという戦略ではなく、お前の国を滅ぼしてやるぞという考え方なんです。それで実際にソ連が存在していたときは、抑止戦略をずっととってきました。だからソ連がヨーロッパに攻め入るとか、中東で米ソ代理戦争が起きるとかいうときには、抑止戦略を発動して、アメリカにあるミサイルが準備されているわけですね。発射のボタンを押してソ連を5回でも10回でも破壊し尽くすだけの核ミサイルを発射するぞ、とそれが抑止戦略だったわけです。なんでそんな戦略をとってきたかという、米ソは経済的にもイデオロギー的にも相容れない、アメリカは社会主義あるいはそのイデオロギーが世界中に広がるのをやめさせたい、だから米ソは体制として両立しない、政治的にも経済的にも両立しない、だから軍事的にも相手の国を破壊するような抑止戦略をとってもかまわないという考え方だったわけです。経済的にも相手国に依存するような関係にならない。

今、アメリカと中国との関係は、それと同じような関係かというところと違うわけです。それはアメリカだってよく承知している。米中の関係は、もうお互いに経済的に切っても切れない関係になっている。ソ連が存在していた時は、ソ連が滅びた方がアメリカにとって得であるという抑止戦略をとっていた。しかし今は中国に繁栄してもらわなければアメリカの繁栄もない、中国からみてもそういう関係にあるわけですね。だから本当は経済的にwin-winでなければならない時代にふさわしい軍事戦略、防衛戦略が生まれてこなければならぬけれども、まだそこまでは描き切れていない、やっぱりどんどん中国が巨大化して行って非常に危ない戦略を取り始めていていろんな不安もある。その中でどういう戦略をとるかつかみかねているのが今のアメリカだと思うんです。

その中で、日本も中国に対して抑止戦略でいいのか、ということを知りたい。防衛の専門家に聞きますと、中国に対して抑止戦略をとるのは間違いであるというのがほとんど主流なんです。どんなに軍事的に危険を感じていても、中国を亡ぼすということになれば、日本経済もアメリカ経済も世界の経済だってもたないと皆常識的に思っている。ところが安倍さんは抑止一辺倒なんですね。でもその抑止というのは微妙で、「安全保障のジレンマ」っていうんですけれども、抑止ということでこちらの軍事力を高めると、相手も警戒して軍事力を高めていく、だから抑止ってやりすぎるとダメなんです。ところが安倍さんは、どうやって中国を挑発するか、という考えでやっている。中国が日本の防衛識別圏を犯す形で一方的に設定したとき、友人の新聞記者が官邸を取材してびっくりしたのが、その報告を聞いて官邸が皆拍手喝采したというんですね。つまり中国がそういうことをやって日本の世論が反発すれば、日本はもっと軍事的に強硬な道を進んでいくことができる、それを喜ぶ感覚ですよ。本当はそういう争いをどうやって鎮めるかということを考えなければならぬ首相がその争いが拡大することを喜ぶ、それはアメリカにとっても非常に困ったことです。

アメリカは、日本が集団的自衛権を行使して、戦争するのを望んでいるか

皆さんは「周辺事態法」ができたときのことを覚えておられると思いますが、台湾海峡でアメリカと中国が戦闘状態に入ったときに、日本の自衛隊が後方支援するという枠組みです。そのときアメリカは、港を使わせるとか、病院はこれぐらい必要だとか、どこの県に何がどのくらい必要だとかいうことを千何十項目も出して日本に検討させたわけですね。アメリカは本当に戦争するときはそれだけの真剣さをもって日本に求めてくるんです。ところが今、安倍さんが集団的自衛権、集団的自衛権と言いますが、アメリカから日本に、集団的自衛権を行使してこういうことをやってくれという要求をしていますか。一つもありません。アメリカが軍事作戦上必要があって求めているものではないんですよ。アメリカにとってみれば、今の枠組み—周辺事態法—がベスト、我々にとってはベストではあ



りませんが、何でベストかといいますと、日本の自衛隊が中国とか朝鮮半島まで出てこない、もし歴史認識問題で、侵略もなかった、植民地支配も悪くなかった、従軍慰安婦なんて云々と言っている日本の軍隊が、かつて侵略したあるいは植民地支配したところまで出かけてきてしまえば、アメリカの軍事戦略に齟齬をきたすんです。なぜかといえば、中国のことを考えてみれば、日本の軍隊（自衛隊）が中国の領土に足を踏み入れたとなれば、中国の人にとってみれば、過去の第二次大戦の憤りがどんどん増幅して行って、もし戦闘状態になれば、アメリカとの間ではどこかで手を打つことがあっても、日本の自衛隊が来てしまっただけでは絶対引き下がれない、やっぱり最後まで徹底して戦うというようにしかなくなっていかないんです。だからアメリカにとってみれば、日本は後方でやってくれている状態が望ましい。だから「周辺事態法」以降、集团的自衛権を一般的に賛成ですか、反対ですかと問われれば、賛成ですと言いますけれども、集团的自衛権を行使してここまで出てこいという要求はしない、だからこういうことがないように、靖国参拝は絶対ダメなんだというメッセージを発している。こういう点で言いますと、国民との間で矛盾が拡大しているだけでなく、自民党政治を支えてきた人たちからも批判や矛盾が広がっていく、そこまで安倍さんの路線は深刻になっているということだと思います。そういうことを敏感に感じ取るから、毎日や朝日の世論調査でも、時間が経つにつれて、集团的自衛権反対が6割を超えるという事態になっているんだと思います。しかしそれなのに安倍政権の基盤が揺らいでいるように見えない。

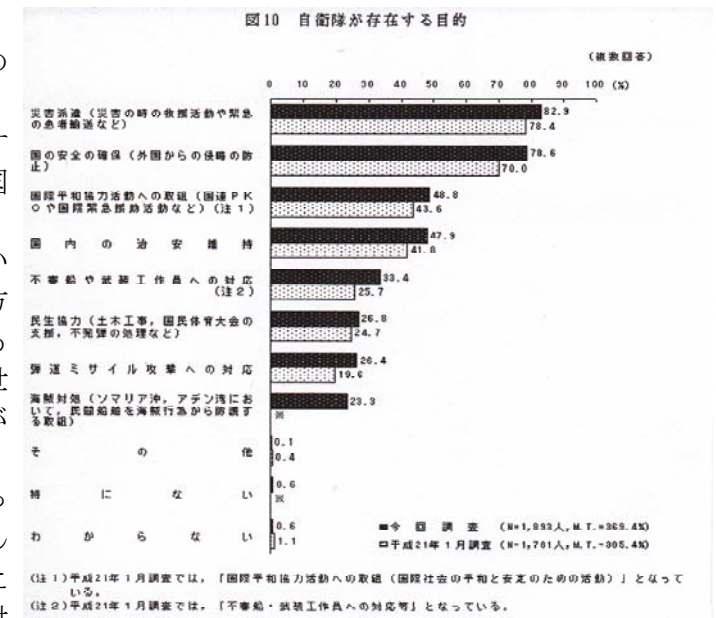
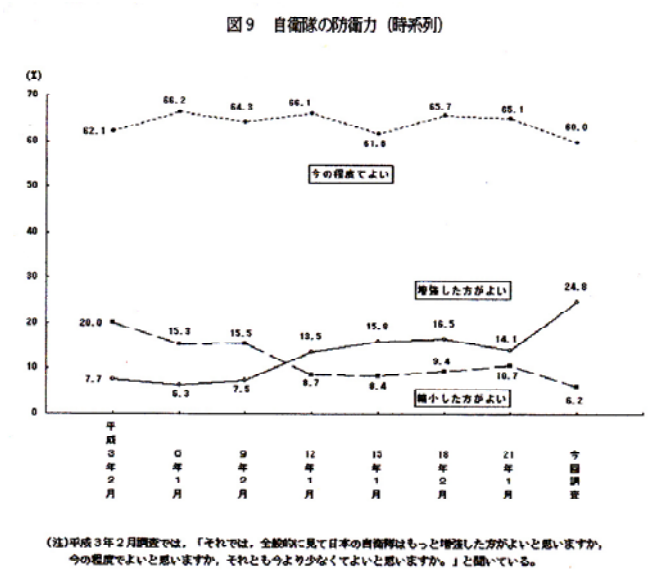
安倍政権が揺らがないのはなぜか

秘密保護法でも7割が反対という世論調査の結果が出ましたが、それでも強行する。集团的自衛権は閣議で決定するだけの話ですから、秘密保護法より簡単なんです。安倍さんが唯一躊躇する場面が出てくるとしたら、もしこれを強行したら安倍政権に対する批判が強まって、安倍政権に代わる別の政権が樹立される可能性があるとなれば慎重になると思います。しかし、今自民党の中では安倍さんの集团的自衛権に反対のまとまった勢力が出てくる動きは全くない。安倍政権が倒れたところで次に出てくるのは石破さんの政権ぐらいで、お互い集团的自衛権では仲間同士という状況。民主党は自ら反省もできず、国民から見放されたまま。維新やみんなの党、結いの党とかはご存じのように集团的自衛権には賛成で、与党を支える勢力になっている。共産党や社民党は秘密保護法や集团的自衛権反対で、一点共闘で国民世論の中で非常に大きな影響力を持って広げるために努力をしたと思います。しかし安倍政権に代わって秘密保護法や集团的自衛権の問題で新しい政権を次の選挙で担おうという方針は持っていない。安倍さんにとってみれば、どんなに国民世論が広がっても、次の選挙で集团的自衛権の路線一軍事強権国家作り一に反対する別の政権が出てくる可能性は全然ない、次の選挙では自分たちの政権が続いているだろうという読みがあるわけですね。そこをどう突き動かしていくのか、変化をもたらしていくのかというのが、我々護憲勢力にとって考えなければならないことだというのが、この間私がずっと言い続けていることなんです。先ほどご紹介いただいた本もそういう角度で書きました。次にその中味をお話ししていきたいと思います。

安倍政権に対し、リベラル保守と護憲派が結ぶ

これまで自民党の防衛政策、軍事戦略を担ってきた人が、こういう安倍さんのやり方でやっていると、国民の命が脅かされるという危機感を持っているわけですね。そういう人たちはもちろん外交も大切にしたいと思います、ある防衛戦略、軍事戦略は必要だと考えているわけです。そういう人たちを巻き込んでいかななくてはならない。国民の世論がそれを求めているからだということをお話したいのです。

資料の「自衛隊・防衛問題に関する世論調査から」を見て下さい。図9自衛隊の防衛力（時系列）では、平成3年（ソ連が崩壊した年）、「自衛隊を縮小した方がよい」は20%でしたが、今回調査（平成24）では6.2%、3分の1に減っている。「増強した方がよい」は、7.7%から24.8%、3倍に増えている。一番多いのが「今の程度でよい」が6割台で、両方足して85%、3・11の直後だという影響はあると思いますが。図10「自衛隊が存在する目的」は、「国の安全の確保」が平成21年調査の70%から、今回調査（平成24）の78.6%に増えている。自衛隊は災害派遣と侵略防止のために両方必要という思いを持っている。それが年を経るごとに強まっている。それが20数年の国民世論の現状なんです。私が言いたいのは、それが日本の国民の中で、平和主義が薄れているとか、物事を軍事力で解決しようという思考が強まっていると考えるとすればそれは全く間違いなんです。自衛隊が必要だと考える人が増えてきた過程は、9条の会ができた当初、9条改定反対が5割までいかない世論状況だったのが増えていく、集团的自衛権は反対だという世論が増えていく、しかし自衛隊は必要だという思いが強まっているということです。（後半は次号で）



森岡怜子さんのシャンソンを楽しむ

これまでの2回と同じく神田緑さんの司会で始まった森岡怜子さんのミニコンサート。会場は椅子を追加しても足りず、立ち見も出る盛況でした。ご存じのように、今年は「宝塚100年」ということで、そのお話と「スマイルの花咲く頃」が歌われました。今回は、東日本大震災のあと、全国で歌われるようになった「花は咲く」を森岡怜子さんのリードで全員で歌いました。大震災から早や3年が経ちましたが、被災された、原発事故で故郷を追われた東北の皆さんのことを決して忘れてはならないと思います。受付に被災者支援のカンパ箱を置き、森岡さんも呼びかけて下さり、**6,415円**が集まりました。カンパして下さい皆さん、ありがとうございました。



「憲法9条の会・岩岡」7周年記念行事 当日のまとめ

参加者 103人 入会者1名
アンケート34通 「講演はいかがでしたか」
(1)よかった 14 (2)わかりやすかった 10 (3)まあまあ 3 (4)難しかった 5
記入なし 2 (意見・感想あり) *意見・感想は次号に掲載します。

催し物の案内

神戸憲法集会

講演「グローバル化と国民国家の危機」内田 樹^{たつる}さん(神戸女学院大学名誉教授、思想家)

と き: 5月3日(祝・土) 12:30開場 13:30開演

と ころ: 神戸芸術センター2F「芸術劇場」

(神戸市営地下鉄「新神戸駅・南」出入口から徒歩4分、三宮駅から徒歩15分)

資料代 1,000円(学生500円)

第78回世話人会 と き: 2014年5月17日(土) 13:30~15:30

と ころ: 岩岡連絡所多目的ホール(小)

7周年記念行事の総括を行います。どなたでもご参加下さい。

憲法9条の会・岩岡 連絡先(事務局) 白井篤子(078-967-275)